

和歌山県白浜町でタコ類が食した稀少な大型二枚貝類

Shin KUBOTA : A rare bivalves that eaten by an octopus at Shirahama, Wakayama, Japan

久保田 信

和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”では、水深数mの沿岸の岩礁地帯でタコ類が幾つかの転石が重なった場所に穴を掘って巣を構えているのが、シュノーケリングでよく観察される。タコ類の巣の直前には食した貝殻が幾つも捨てられているが、今回、この場所では珍しい大型二枚貝類（久保田・小山, 2002a, b）の最大個体が幾つも見つかったので報告する。

2014年8月中旬から9月初旬の早朝に、毎日の様に頻繁にシュノーケリング調査した結果、4個体のタコ類（2個体は姿を確認できずだが）が、この場所では稀少なアラヌノメガイ *Periglypta reticulata* (LINNAEUS) を幾つも食していることに気付いた。最初に気付いた巣には、これまでの食事時間が長かったためか、8個体が捨てられており、その内の2個体は合弁だった（図1、左側の8個体）。その後は、他の3個体のタコ類はそれぞれ、2, 3, 2個体のアラヌノメガイを食していた（図1の右半分で、ばらばらになっているが、全てではないがちゃんと合弁個体）。

食されていたアラヌノメガイの最大個体は殻長85mm、殻高71mmで、本種では最大に近いと思われる。1個体はスリガハマ *Tapes platyptychus* (PILSBRY)（合弁個体で殻長59mm、殻高40mm）で、こちらは比較的よく成長した個体であった（図1、中央上の3個体の内の一つ）。これら2種の他には、タコ類はエガイ *Barbatia* (ABARBATIA) *lima* (REEVE) とザルガイ *Vasticardium burchardi* (DUNKER) を食していた。

今回観察したタコ類の4巣の半数では、何度観察してもタコの姿を確認できなかった。その理由は、タコが出かけている可能性も否定できないが、巣を変えた可能性がある。他の2巣もそれらと同じ個体が使ったのかどうかは不明だ

が、遭遇した全ての巣で共通して、アラヌノメガイが食されていたのは、この貝が希少種と言えど、食用としてのタコ類の好みがあるのだろう。

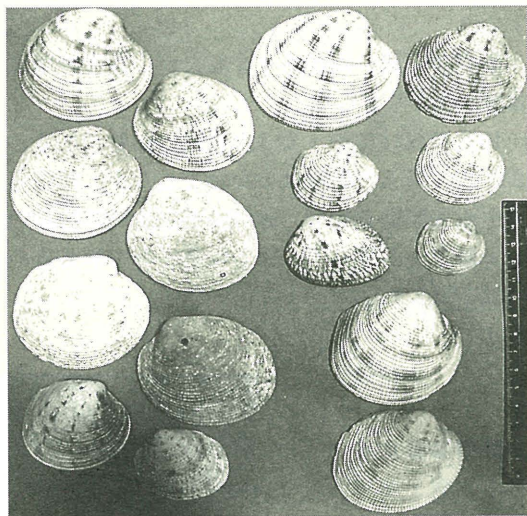


図1 和歌山県白浜町“北浜”の水深数mで2014年8月から9月にかけてタコ類に食されていたアラヌノメガイとスリガハマ

参考文献

- 久保田 信・小山安生, 2002a: 番所崎、特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録 (1). 南紀生物, **44** (1), 69-76.
- ・———, 2002b: 番所崎、特に“北浜”（和歌山県白浜町）へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録 (2). 南紀生物, **44** (2), 133-139.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター
瀬戸臨海実験所